

第124回日商簿記2級 第1問 仕訳問題類題 問題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金預金	受取手形	売掛金	売買目的有価証券
満期保有目的債券	未収入金	仮払消費税	車両
建物	支払手形	買掛金	未払金
修繕引当金	前受金	仮受消費税	未払消費税
車両減価償却累計額	仕入	減価償却費	修繕費
租税公課	発送費	固定資産売却損	売上
有価証券利息	固定資産売却益		

1. 当期首に営業用建物（取得原価 ¥ 10,000,000、残存価額 ¥ 1,000,000、耐用年数 10 年、定額法による減価償却、間接法により記帳）の修繕を行い、代金 ¥ 1,400,000 のうち ¥ 800,000 については小切手を振り出して支払い、残額は月末に支払うこととした。なお、このうち ¥ 500,000 については建物の耐震構造を強化する効果があると認められた。また、修繕引当金の残高は ¥ 200,000 である。
2. (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)
3. 決算にさいして、消費税の納付額 ¥ 200,000 を計算し、これを確定した。なお、消費税の会計処理は税込方式によっている。
4. 平成 21 年 6 月 12 日に売買目的で浅田産業株式会社の社債（額面：¥ 5,000,000）を額面 ¥ 100 につき ¥ 95.45 で買い入れ、代金は証券会社への手数料 ¥ 5,000 および端数利息とともに小切手を振り出して支払った。なお、この社債の利率は年 2.57%、利払日は 3 月末日と 9 月末日の年 2 回である。また、端数利息の金額については、1 年を 365 日として日割で計算する。
5. 営業用車両（取得原価：¥ 2,000,000、残存価額：¥ 200,000、前期末における減価償却累計額：¥ 1,200,000、生産高比例法による減価償却、見積総走行可能距離：150,000km）を下取りさせて、新たな営業用車両（購入価額：¥ 3,000,000）を購入した。なお、旧車両の当期の走行距離は 15,000km、下取り価額は ¥ 100,000 で、購入価額との差額は月末に支払うこととした。

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	建物	500,000	現金預金	800,000
	修繕引当金	200,000	未払金	600,000
	修繕費	700,000		
2	(試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)			
3	租税公課	200,000	未払消費税	200,000
4	売買目的有価証券	4,777,500	現金預金	4,803,200
	有価証券利息	25,700		
5	減価償却費	180,000	車両	2,000,000
	車両減価償却累計額	1,200,000	未払金	2,900,000
	固定資産売却損	520,000		
	車両	3,000,000		
別解	減価償却費	180,000	車両減価償却累計額	180,000
	車両減価償却累計額	1,380,000	車両	2,000,000
	固定資産売却損	520,000	未払金	2,900,000
	車両	3,000,000		

・解説

1. 固定資産の修繕に関する問題です。

修繕に関する問題は、支出した費用を「収益的支出」と「資本的支出」に分けて処理しましょう。

■収益的支出：定期修繕など固定資産の諸機能を維持するための支出 → 修繕費・修繕引当金で処理

■資本的支出：耐用年数を延長させたり、その価値を高めるような支出 → 固定資産の増加として処理

本問はまず、問題文の「このうち ¥ 500,000 については建物の耐震構造を強化する効果があると認められた」から、この 500,000 円が**資本的支出**であることが分かるので、**建物の増加**として処理します。

★解答①・資本的支出

(借) 建物 500,000 / (貸) 現金預金 500,000

また、問題文の「**当期首に営業用建物の修繕を行い、代金 ¥ 1,400,000 円のうち ¥ 800,000 については小切手を振り出して支払い、残額は月末に支払うこととした**」から、残りの 900,000 円 (=1,400,000 円 - 500,000 円) が**収益的支出**であることが分かります。

さらに、問題文の「**修繕引当金の残高は ¥ 200,000 である**」から 200,000 円の修繕引当金が設定されていることが分かります。

よって、900,000 円のうち 200,000 円については**修繕引当金**を取り崩して処理し、残額の 700,000 円については**修繕費**で費用処理します。

★解答②・収益的支出

(借) 修繕引当金 200,000 / (貸) 現金預金 300,000
(借) 修繕費 700,000 (貸) 未払金 600,000

以上、①②をまとめると解答仕訳になります。

固定資産の修繕に関する問題は、第100回の問1や第102回の問4、第110回の問1、第111回の問5、第115回の問3、第119回の問2、第123回の問5、第132回の問1、第137回の問3、第139回の問1、第139回の問4、第141回の問2、第147回の問1、第149回の問3でも出題されているので、あわせてご確認ください。

2. (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)

3. 消費税に関する問題です。

消費税を税込方式により記帳している場合、期中における消費税の受払いは売上や仕入等を含めて処理しておいて、消費税の納付額が確定したタイミングで租税公課と未払消費税を計上します。

本問は、問題文に「決算にさいして、消費税の納付額 ¥ 200,000 を計算し、これを確定した」とあるので、納付額 20,000 円を**租税公課**および**未払消費税**で処理します。

消費税に関する問題は、第104回の問3や第110回の問2、第117回の問3、第132回の問3、第138回の問5、第142回の問1、第143回の問5、第144回の問3、第146回の問5、第147回の問3、第150回の問4でも出題されているので、あわせてご確認ください。

4. 有価証券の購入に関する問題です。

本問は、取引を【有価証券の購入に関する仕訳】と【利息の支払いに関する仕訳】の2つに分けて解答を考えましょう。

■有価証券の購入に関する仕訳

社債を購入した場合、購入代価と付随費用(取得に伴い発生した費用)の合計額を取得原価として資産計上します。

$$\text{取得原価} = \text{購入代価} + \text{付随費用} = (5,000,000 \text{ 円} \times @95.45 \text{ 円} / @100 \text{ 円}) + 5,000 \text{ 円} = 4,777,500 \text{ 円}$$

なお、本問は問題文に「**売買目的**で」とあるので、**売買目的有価証券**で処理します。

- ・短期間で売買する目的で購入：**売買目的有価証券**で処理
- ・満期まで保有する目的で購入：**満期保有目的債券**で処理
- ・その他の目的(長期保有など)で購入：**その他有価証券**で処理

★解答①・有価証券の購入に関する仕訳

(借) 売買目的有価証券 4,777,500 / (貸) 現金預金 4,777,500

■利息の支払いに関する仕訳

問題文に、「**社債の利率は年2.57%**、**利払日は3月末日と9月末日の年2回**」とあり、購入日が6月12日なので、

4月1日から6月12日までの**73日分(30日+31日+12日)**の**端数利息**を計算します。

$$\text{有価証券利息} = 5,000,000 \text{円} \times 2.57\% \times 73 \text{日} / 365 \text{日} = 25,700 \text{円}$$

★解答②・利息の支払いに関する仕訳

(借) 有価証券利息 25,700 / (貸) 現金預金 25,700

以上、①②の仕訳をまとめると解答仕訳になります。

ところで、上記の仕訳について、なぜ購入時に「前回の利払日の翌日から購入日までの端数利息」を支払わなければいけないかはお分かりですか？

社債を購入すると次回の利払日(本問の場合は9月30日)に半年分の利息を受け取ることになりますが、購入時に「前回の利払日の翌日から購入日まで端数利息」を先に支払っておかないと、保有していなかった期間(4月1日から6月12日まで)の分まで余分にもらってしまうことになるからです。

・購入日(6月12日): 前回の利払日の翌日から購入日までの73日分の端数利息を支払う

・利払日(9月30日): 半年分の利息を受け取る

→「半年分の利息-73日分の利息」で**保有期間に見合った有価証券利息**が計上される

質問掲示板でもよくお問い合わせいただく論点なので、上記の考え方・処理方法をきちんと押さえておきましょう。

有価証券の購入に関する問題は、第102回の間3や第130回の間1、第140回の間4、第143回の間1、第144回の間4、第145回の間3、第149回の間2でも出題されているので、あわせてご確認ください。

5. 固定資産の買換えに関する問題です。

買替えの問題は処理が煩雑になることが多く、苦手意識を持っている受験生が多いですが、ひとつひとつ丁寧に考えていけばそんなに難しい問題ではありません。

■当期の減価償却費に関する仕訳

それでは早速、問題を解いていきましょう。本問はまず当期の減価償却費を算定しますが、問題文に「旧車両の**当期の走行距離は15,000km**」とあるので、生産高比例法により15,000km分の減価償却費を計上するだけです。

$$\text{当期の減価償却費} = 2,000,000 \text{円} \times 0.9 \times 15,000 \text{km} / 150,000 \text{km} = 180,000 \text{円}$$

★解答①…当期の減価償却費に関する仕訳

(借) 減価償却費 180,000 / (貸) 車両減価償却累計額 180,000

■旧車両の売却に関する仕訳

次に、旧車両の売却損益を算定するために買換時の旧車両の帳簿価額を算定しますが、取得原価2,000,000円から「前期末累計額1,200,000円」と、上で求めた「当期の減価償却費180,000円」を差し引くだけです。

買換時の車両の帳簿価額が判明したら、下取り価額100,000円との差額520,000円を固定資産売却損で処理します。

- ・買替時の帳簿価額=2,000,000円-1,380,000円=620,000円
- ・下取り価額=100,000円
- ・差額=520,000円（帳簿価額>売却価額…売却損）

★解答②…旧車両の売却に関する仕訳

(借) 車両減価償却累計額 1,380,000 / (貸) 車両 2,000,000
 (借) 現金 100,000
 (借) 固定資産売却損 520,000

■新車両の購入に関する仕訳

最後に、新車両を購入に関する仕訳を切ります。3,000,000円のうち100,000円については旧車両の下取り価額100,000円を充当し、残額の2,900,000円については未払金勘定で処理します。

★解答③…新車両の購入に関する仕訳

(借) 車両 3,000,000 / (貸) 現金 100,000
 (貸) 未払金 2,900,000

以上、①②③の仕訳をまとめると解答仕訳になります。

なお、借方と貸方の車両減価償却累計額勘定は借方にまとめてもいいですし、まとめずにそのまま残しても正解ですが、②の車両と③の車両は別のもので、**まとめずに借方と貸方にそのまま計上する点に気をつけてください。**

固定資産の買換えに関する問題は、第106回の問5や第134回の問1、第136回の問1でも出題されているので、あわせてご確認ください。